Integra®

7チャンネルアンプ

DTA-7

取扱説明書

箱を開けたら、まず

操作の概要

接続について

その他

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも
見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

目次

箱を開けたら、まず

オーディオ機器の正しい使いかた 3
特長 8
付属品を確認する 8
使用上のご注意 9
通風について 9
設置する場所と空間 9
電源コードについて 9
接続するスピーカーについて 9
お手入れ 9
その他 9
雷が鳴ったら 9
著作権について 9

操作の概要

早見操作ガイド 10
フロントパネルの名称と働き 11

接続について

リアパネルの働きと接続 12
スピーカーを接続する 14
スピーカーの接続 14
オンキヨー製AVコントローラーDTC-7を接続する 15

その他

故障？と思ったときは 16
仕様 17
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内 18
修理について 19

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでくだい。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
  本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。
- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 中に物を入れない

- 本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら、機器に触れない

接触禁止

- 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 設置上の注意

- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■ スピーカーコードについて

- スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

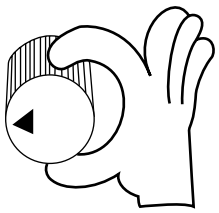
- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
  本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
  化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

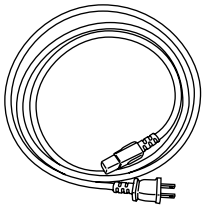


特長

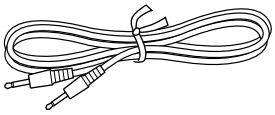
■ オーディオ専用ハイパワースイッチング電源搭載
■ 銅プレート配線を多用、大型コイルや極太巻線をふんだんに使用した超低インピーダンス設計
■ オールディスクリート構成の積分型PWM方式7チャンネルアンプ搭載
■ XLR（バランス）入力により、ダイナミックレンジ、および長いケーブル使用時の安定性を向上
■ 高級金メッキスピーカーターミナルおよびRCA/XLR入力端子採用
■ バナナプラグ対応高級カスタムスピーカーターミナル採用
■ 12Vトリガー入力端子
■ 着脱式電源コード

付属品を確認する

本機に以下の付属品が含まれているかどうかを確認してください。（ ）内の数字は個数を表します。



電源コード（2m）（1）



ステレオミニプラグ付ケーブル（1m）（1）
（コントロールリンク対応のオンキヨー製品の
12Vトリガー端子の接続に使用します。）

取扱説明書（本書1）

保証書（1）

使用上のご注意

本機をお使いになる前に、「オーディオ機器の正しい使いかた」（3〜7ページ）とあわせて、下記の注意事項もよくお読みください。

通風について

使用中、本機はかなり熱くなります。過度な温度上昇は、アンプの性能を損なうことがあります。

過度な温度上昇を防止するには、空気の流れを良くして、放熱をすることが大切です。

ご注意

- 本機を空気がこもりがちな狭いラックや、押し入れには入れないでください。
- 本機を暖房機などの熱源から離して設置してください。
- 本機の上下に他の機器等を重ねて置かないでください。
- 本機のカバーには換気用の通風孔があり、内部の温度上昇を防ぐように設計されています。これらの通風孔は絶対にふさがないでください。

棚に収納する場合は、棚の背面の上下に換気口を開け、通風をよくするか、ファンを使って空気を循環させてください。目安としては、音声信号入力待ちの状態にあるときに本機の上部が熱すぎて触れることができなければ、換気を改善する必要があります。

設置する場所と空間

本機を設置する場所の床や、特に棚やラックに収納する場合は、重さに耐えうるだけの強度があることを確認してから設置してください。

本機の背面には、電源コードをはじめ、その他の接続ケーブルのための適切な空間が必要です。これらのコードやケーブル類を無理に折り曲げたり、力をかけたりせずにすべてのケーブルを収納するには、10センチメートル以上の空間が必要です。

本機をテレビやラジオの近くに設置しないでください。テレビやラジオに雑音や映像の乱れが生じることがあります。

電源コードについて

付属の電源コード以外は使用しないでください。付属の電源コードは本機のために特別に設計されたものですので、他の機器には使用しないでください。

警　告

本機の電源コードを接続するときは、13ページ以降の説明をよくお読みください。

接続するスピーカーについて

スピーカーはインピーダンスが4Ω以上のものを接続してください。4Ω未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。

お手入れ

フロントパネル、リアパネル、カバーは、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと、乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなどは使用しないでください。傷がついたり、文字が消えたりすることがあります。

引火性または可燃性の洗剤も使用しないでください。

また、リアパネルの入出力端子のお手入れに、接点復活剤は使用しないでください。樹脂が劣化することがあります。

その他

次のことは絶対にしないでください。

- 放送設備用や楽器用のアンプとしては使用しないでください。
- 本機の電源として、発電機、DC/ACコンバーター、AC/ACコンバーターやトランスを使わないでください。
- 入力端子または入力ケーブルの先端を指で触れて、通電を確かめるようなことは絶対にしないでください。感電の危険性だけでなく、スピーカーの故障の原因となります。
- 出力端子どうしや、出力端子とリアパネルをショートさせないでください。
- カバーを外さないでください。
- 小さな子どもの手の届く所に設置しないでください。

雷が鳴ったら

電源プラグやカバー、また本機に接続している機器類に触れないでください。

著作権について

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。

早見操作ガイド

ここでは、接続と操作の流れを説明します。
実際に接続や操作をするときは、次ページ以降の説明も必ずお読みください。
下記の内容は、ソース機器とコントロールアンプ（プリアンプ）の接続など、システムの他の接続が完了している場合の手順です。

1. コントロールアンプのボリュームを下げる

突然大きな音が出るのを防ぐため、音量は絞っておいてください。

2. スピーカーを本機に接続する

スピーカーコードを使って接続します。
各コードの極性（＋）/（－）は正しく接続してください。接続を間違えると、定位感が損なわれることになります。

3. 本機のINPUT SELECT（入力切り換え）スイッチで、バランス入力端子またはRCA入力端子を選ぶ

コントロールアンプと本機を接続するケーブルのタイプに合わせて切り換えます。本機には各チャンネルごとにバランス入力端子とRCA入力端子があり、ケーブルのタイプやコントロールアンプの機能に応じて切り換えることができます。

ご注意

電源を入れた状態でINPUT SELECTスイッチを切り換えないでください。

4. コントロールアンプを本機に接続する

手順3で選んだ入力方式に合わせて、コントロールアンプの出力を本機の対応する入力端子に接続します。

ご注意

もう一方の入力端子には何も接続しないでください。

5. 付属の電源コードを本機と壁コンセントに接続する

プラグはしっかり奥まで差し込んでください。

6. Powerスイッチを押す

このスイッチを押すと、Standbyインジケーターが赤く点滅したあと、Onインジケーターが青く点灯します。
12V TRIGGER IN端子にケーブルを接続している場合は、接続する機器の電源オン/オフに連動します。
Standbyインジケーターが赤く点灯しているときは、信号待機状態です。

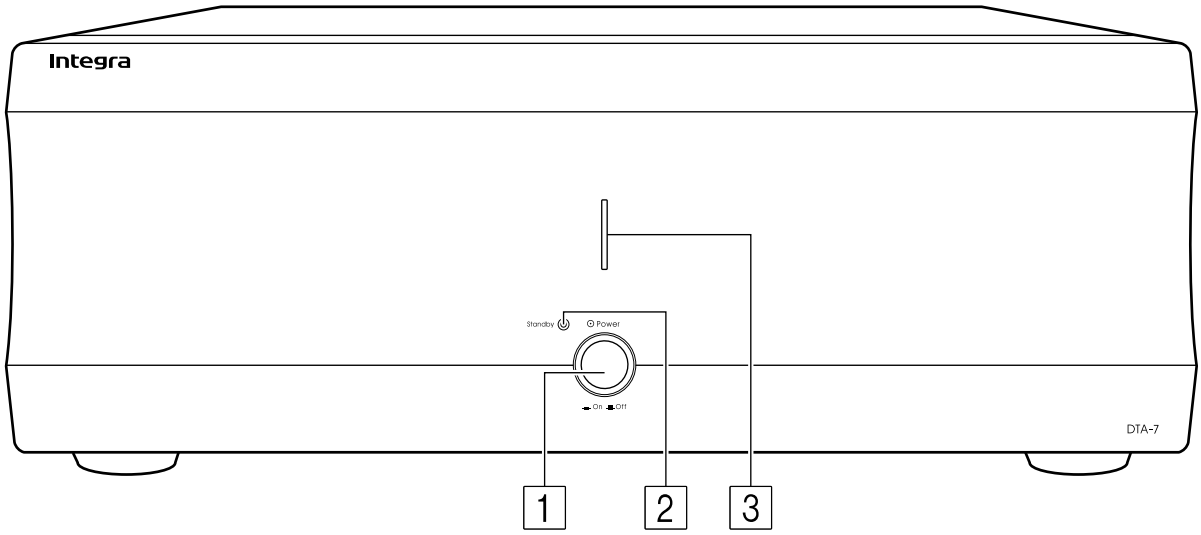
7. コントロールアンプのボリュームを徐々に上げる

ご注意

Powerスイッチを押したあと、音が出るまで約10秒かかります。その間はボリュームを上げないでください。

以降の操作については、コントロールアンプおよび接続機器の説明書をご覧ください。

フロントパネルの名称と働き



1 Power（パワー） On（オン） / Off（オフ） スイッチ（主電源）

本機の電源をオン/オフします。

Offのとき：本機は、電源オフの状態です。

Onのとき：12V TRIGGER IN端子にケーブルが接続されていないときは、本機は電源オンになります。12V TRIGGER IN端子にケーブルが接続されているときは、12Vトリガー信号がきていれば、本機は電源オンになります。12Vトリガー信号がきていなければ、本機はスタンバイ状態になります。
（12V TRIGGER IN端子 ☞13ページ）

ご注意

本機の電源をオフにしたあと、再度電源をオンにするときは、電源をオフにして30秒以上たってから電源をオンにしてください。

2 Standby（スタンバイ）インジケーター と 3 On（オン）インジケーター

本機のPowerスイッチがOnのとき、また本機に異常があったとき、それらの状態を示します。

Powerスイッチが Onのときは、次のどちらかのインジケーターが点灯します。

Onインジケーターが青く点灯：本機の電源が入った状態で、演奏が可能です。

Standbyインジケーターが赤く点灯：12Vトリガー端子からの信号待機状態です。

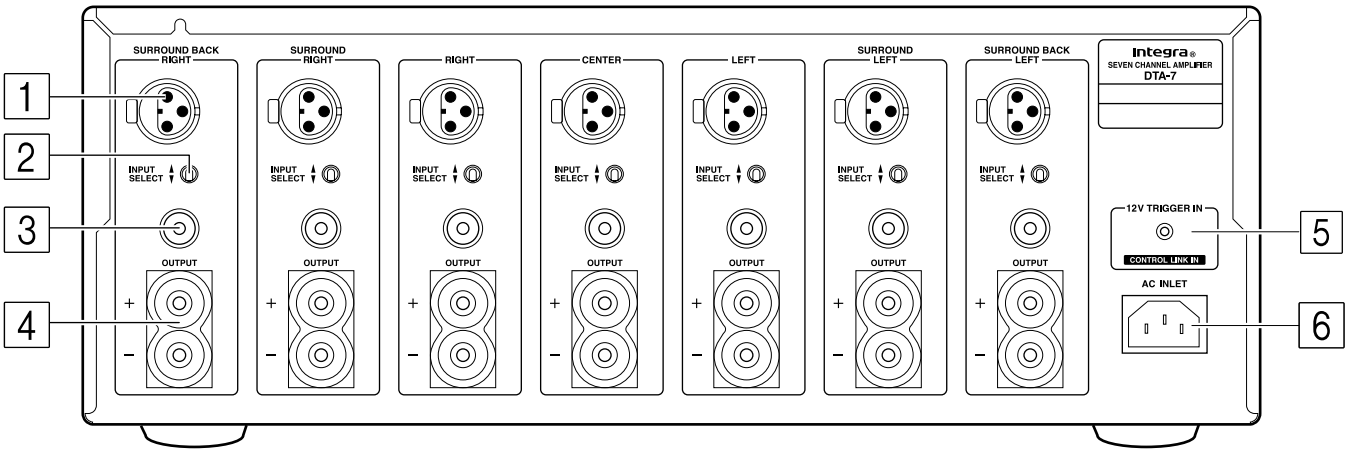
ご注意

Powerスイッチが Onのとき、どちらのインジケーターも点灯していない場合は、本機の電源コードが正しく接続されているかお確かめください。それでも点灯しない場合は、電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはオンキヨーサービスセンターへご連絡ください。
また、Onインジケーターが青く点灯していて、Standbyインジケーターが赤く点滅している場合は、本機の保護回路が働いています。スピーカーコードがショートしたり、本機の温度が上昇しすぎると保護回路が働きますので、その場合は一度電源を切り、原因を取り除いてから再び電源を入れてください。それでも改善されない場合は、電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはオンキヨーサービスセンターへご連絡ください。

リアパネルの働きと接続

ご注意

- **電源コードは、他のすべての接続が終わるまで接続しないでください。**
- **接続する機器に付属の説明書も必ずお読みください。**
- **電源を入れた状態（Power ▬ On）で入力端子または出力端子にケーブルを接続したり、これらの端子からケーブルをはずしたりしないでください。**
- **電源を入れる前に、必ずコントロールアンプのボリュームを完全に絞ってください。**

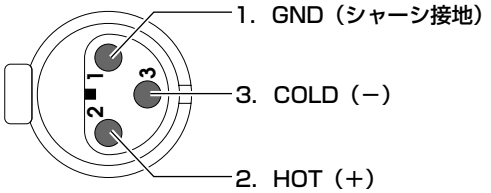


接続上の注意

本機は7チャンネルの独立したパワーアンプで構成されており、各アンプはそれぞれの入力信号に対して、同じ音質と同じ性能を実現します。ご使用の際には、各チャンネルに音声信号を入力し、スピーカーを接続してください。2チャンネルや5チャンネル接続をしている場合、余ったチャンネルには何も接続しないでください。

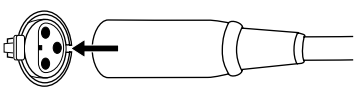
1 バランス入力端子（XLRタイプ）

XLRタイプのバランス出力端子を持つコントロールアンプを接続します。
ピン配列は次のとおりです。（AES規格準拠）
接続時は、コントロールアンプの説明書をご覧になり、出力端子のピン割り当てが本機に対応していることをご確認ください。オンキヨー製AVコントローラーDTC-7およびRDC-7は対応しています。



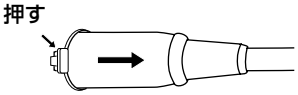
入力端子にケーブルを接続する

ピンの位置を合わせてカチッと音がするまで端子を差し込みます。ケーブルを軽く引っ張り、ロックされていることを確認してください。



入力端子からケーブルをはずす

コネクターのボタンを押しながら、矢印の方向にプラグを引っ張ります。



ご注意

- バランス接続にするときは、INPUT SELECTスイッチを▲側（バランス入力端子側）に切り換え、市販のXLRタイプのバランスケーブルを使って、コントロールアンプと本機を接続します。
- RCA入力端子（RCAタイプ）には、何も接続しないでください。

2 INPUT（インプット） SELECT（セレクト）（入力切り換え）スイッチ

各チャンネルの音声入力端子を選びます。

▲側に倒すと、バランス入力が選択されます。

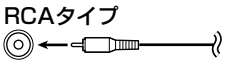
▼側に倒すと、RCA入力が選択されます。

ご注意

- 電源を入れた状態では、入力を切り換えないでください。
- 選択していない方の入力端子には、何も接続していないことをお確かめください。

3 RCA入力端子（RCAタイプ）

コントロールアンプのRCA出力端子（RCAタイプ）を接続します。



ご注意

- この接続をするときは、INPUT SELECTスイッチを▼側（RCA入力端子側）に切り換え、市販のオーディオ用ピンコードを使って、コントロールアンプと本機を接続します。
- バランス入力端子には、何も接続しないでください。

4 OUTPUT（音声出力）端子（スピーカー出力）

本機は、スピーカーシステムへの出力端子として、高品質の大型スピーカーターミナルを装備しています。本機の音質を最大に引き出すには、高品質のスピーカーコードを使用することをお勧めします。

各チャンネルのマイナス（−）（白色）出力端子とスピーカーのマイナス（−）入力端子を、プラス（+）（赤色）出力端子とスピーカーのプラス（+）入力端子を接続します。

5 12V TRIGGER IN（CONTROL LINK IN）端子

他機の12Vトリガー出力端子と接続し、本機をコントロールします。

オンキヨー製AVコントローラーDTC-7と接続する場合：

付属のステレオミニプラグ付ケーブルを使って、DTC-7の12V TRIGGER OUT端子と接続します。

12V TRIGGER OUT B（CONTROL LINK OUT）端子に接続する場合：

DTC-7の電源オン/スタンバイに連動して本機の電源をオン/スタンバイします。

また、DTC-7のディマー機能（表示部の明るさ調整）に連動して本機のOnインジケーター、Standbyインジケーターの明るさを4段階に切り換えます。

12V TRIGGER OUT A端子に接続する場合：

DTC-7の電源オン/スタンバイに連動して本機の電源をオン/スタンバイします。

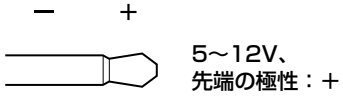
ご注意

DTC-7との接続には、必ず付属のステレオミニプラグ付ケーブルをお使いください。これ以外のケーブルをご使用になると、ディマー機能の連動は働きません。

DTC-7以外のお手持ちの機器と接続する場合：

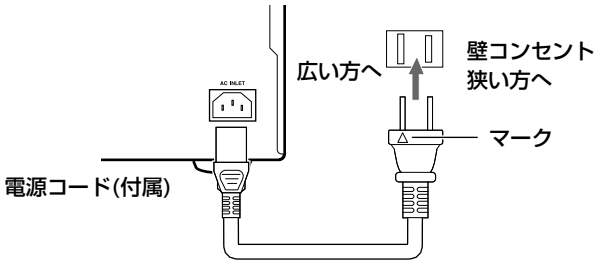
市販の3.5mmモノラルケーブルを使って、他機の12Vトリガー出力端子と接続します。他機の電源オン/スタンバイに連動して、本機の電源をオン/スタンバイできます。

3.5mmモノラルケーブルの先端の極性は下記のとおりです。



6 AC INLET（AC電源入力）コネクター

付属の電源コードを本機のAC INLETコネクターに接続してから、壁コンセントに接続します。



- コントロールアンプの電源コンセント（AC OUTLET）など、壁コンセント以外のコンセントには接続しないでください。
- 本機の電源コード以外の、すべての接続が完了していることを確認してください。
- 電源コードは、壁コンセントに接続した状態で本機のAC INLETコネクターから抜かないでください。感電する恐れがあります。電源コードは、接続時には最後に壁コンセントに接続し、抜くときは最初に壁コンセントから抜いてください。
- 電源コードはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。電源コードの△マークのついている方を壁コンセントの溝の広いほうに合わせて差し込んでください。溝の広さが同じ場合は、どちらに接続してもかまいません。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続するようにしてください。

スピーカーを接続する

まずお手持ちのスピーカーを配置してください。次に本機との接続をします。スピーカーの取扱説明書をご覧になりながら、正しい配置と接続をしてください。
サラウンド再生には、スピーカーシステムの構成内容と配置を対応したものにする必要があります。
また、接続するスピーカーの許容入力が小さいときは、大音量は出せません。過大入力により、スピーカーが壊れることがあります。

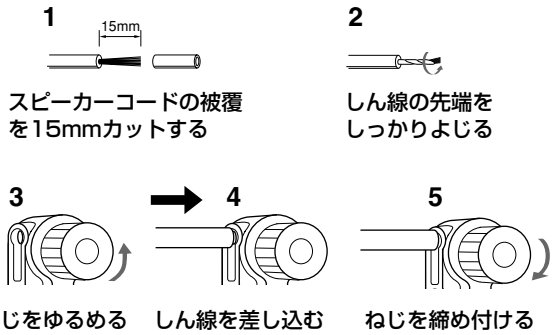
スピーカーの接続

本機の赤（＋）の出力端子をスピーカーの（＋）端子に、白（－）の出力端子をスピーカーの（－）端子に接続してください。スピーカーコードは、片側にマークがついていたり、線が入っていたりしますので、それらを目印に接続してください。本機とスピーカーは（＋）どうし、（－）どうしを接続（同相）してください。本機とスピーカーの（＋）と（－）を接続（逆相）すると定位（楽器や歌い手の位置）が不明瞭になったり、違和感を感じたりします。

スピーカーはインピーダンスが4Ω以上のものを接続してください。4Ω未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。

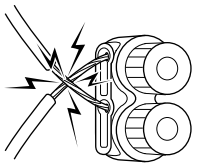
下記の手順で接続してください。

- 被覆のカットやしん線をよじる際に、被覆やしん線の切れ端が本機の通風孔から内部に落ちないようにご注意ください。



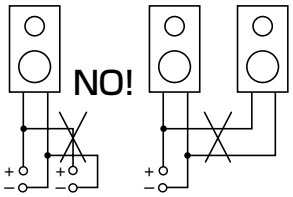
危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対にショートさせないでください。また、スピーカーコードのしん線とリアパネルを絶対にショートさせないでください。

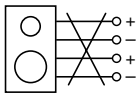


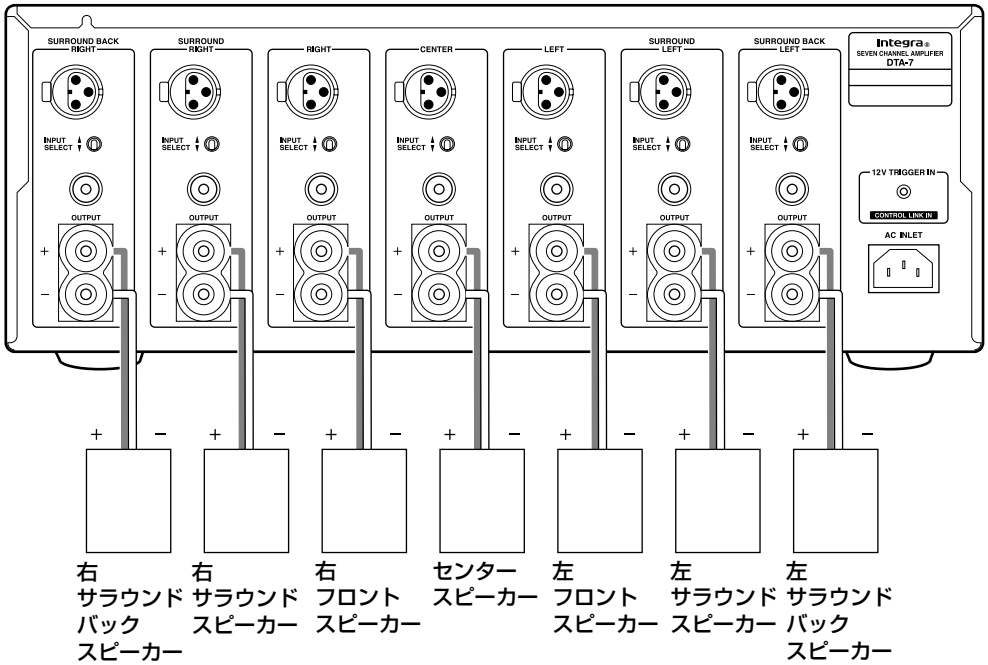
ご注意

- この端子に、スピーカー以外の機器を接続しないでください。また、出力端子どうしや出力端子とリアパネルは絶対にショート（短絡）させないでください。
- プラス（＋）とマイナス（－）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声が不自然になります。
- マイナス（－）端子は、アース（GND）電位ではありません。
- バナナプラグを使用するときは、出力端子のねじを締めつけた状態にしてから差し込んでください。ねじがゆるんでいると、音が歪んだり、音が出ない原因になります。
- 1台のスピーカーを2組以上の出力端子に並列接続しないでください。また、1つの出力端子に2台以上のスピーカーを接続しないでください。故障の原因となります。



- 1つのスピーカーシステムのそれぞれのスピーカーユニットに別々のアンプを使う、いわゆるバイアンプ接続をしないでください。故障の原因になります。





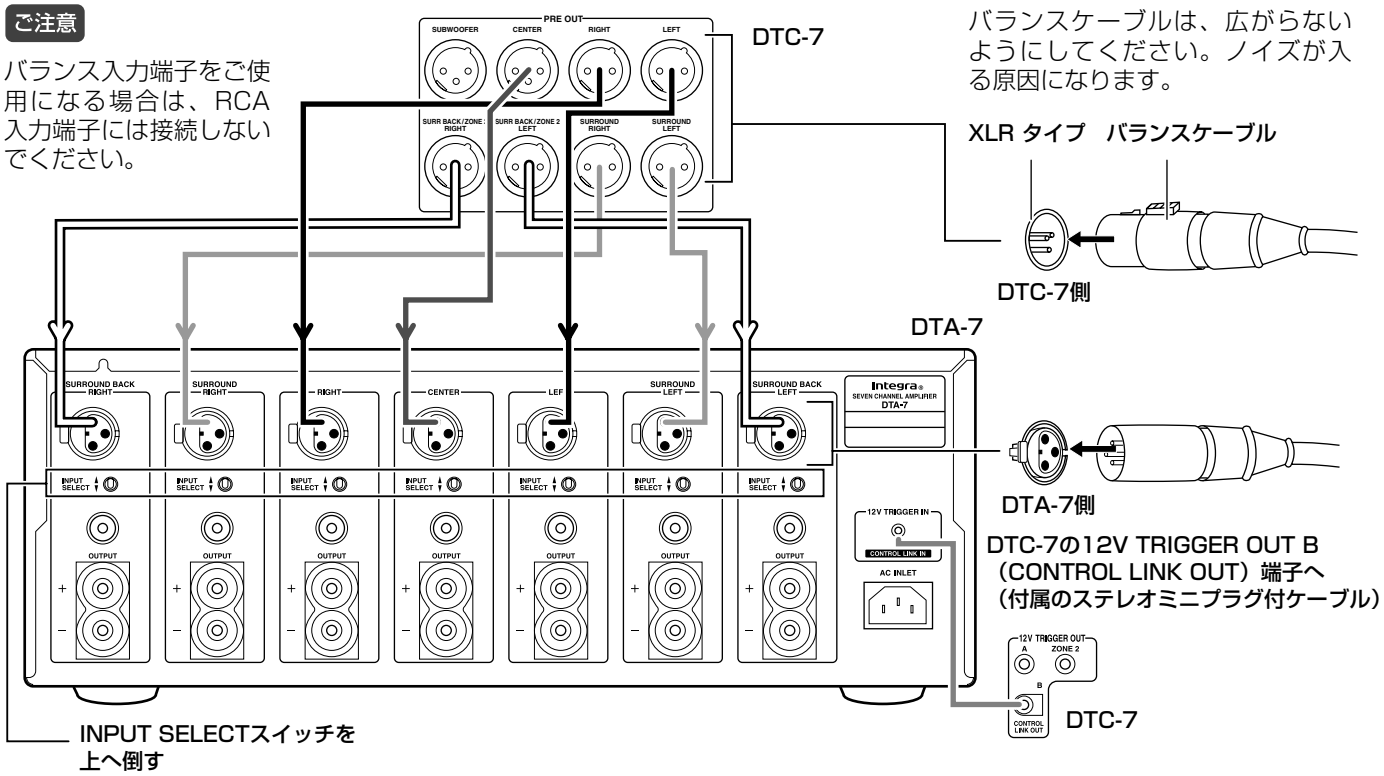
オンキヨー製AVコントローラーDTC-7を接続する

下図は、別売のAVコントローラーDTC-7と本機の接続例です。

バランス入力端子（XLRタイプ）の接続

ご注意

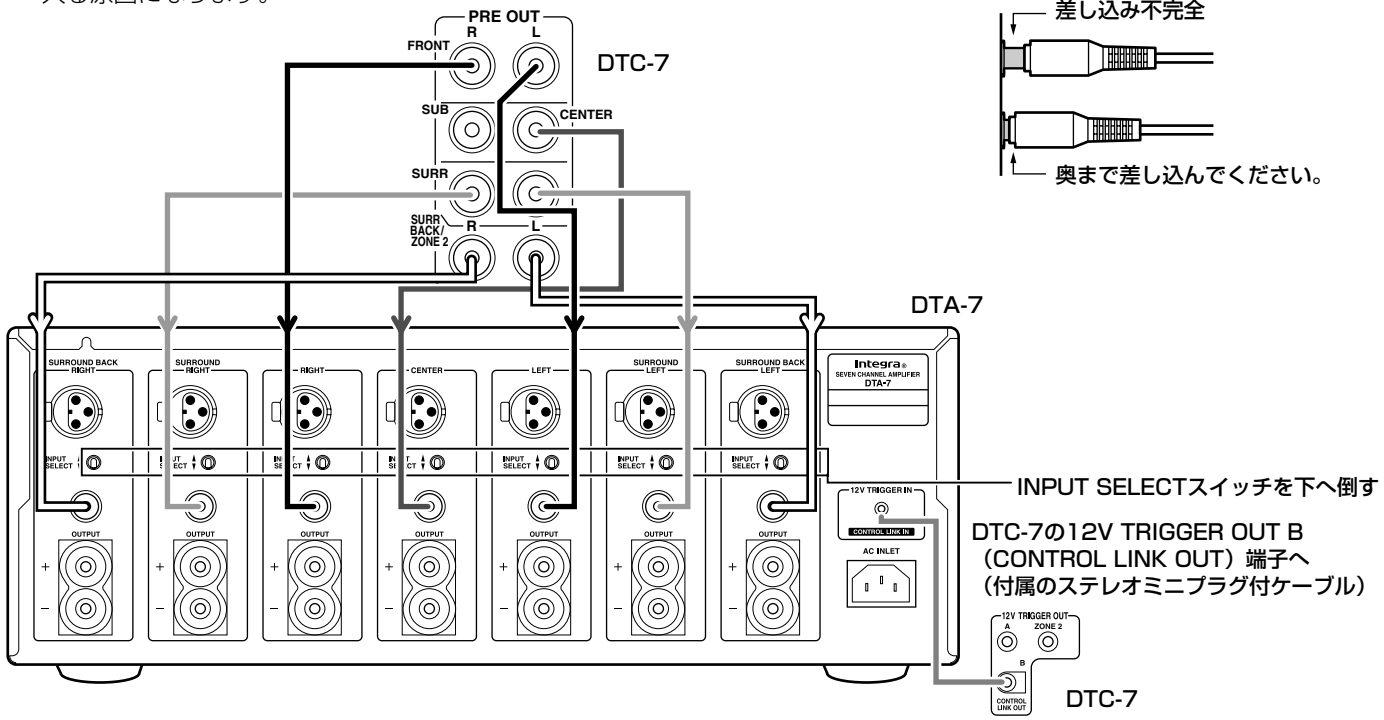
バランス入力端子をご使用になる場合は、RCA入力端子には接続しないでください。



RCA入力端子（RCAタイプ）の接続

ご注意

- RCA入力端子をご使用になる場合は、バランス入力端子には接続しないでください。
- ピンコードは広がらないようにしてください。ノイズが入る原因になります。



故障？と思ったときは

まず次のようなチェックをしてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
これらの処置をしたり他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店、またはオンキヨーサービスセンターまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名DTA-7」と「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

1. 電源は入るが音がでない

- スピーカーコードが正しく接続されていますか。
- 入力コードが接続されていますか。
- コントロールアンプからの信号が来ていますか。
- 入力切り換え（INPUT SELECT）スイッチが正しい位置にありますか。
- Onインジケーターが青く点灯し、同時にStandbyインジケーターが赤く点滅しているときは、本機の保護回路が働いています。その場合は、スピーカーコードがショートしていたり、本機の温度が上がりすぎている可能性があります。いったん電源を切り、原因を取り除いてからご使用ください。
- Standbyインジケーターが赤く点灯していて、Onインジケーターが消灯しているときは、12Vトリガー信号待機状態です。コントロールアンプの電源をオンにしてください。それでも本機の電源がオンにならないときは、12Vトリガー端子の接続ケーブルが確実に接続されているかどうかご確認ください。

2. ハム、その他の雑音が入る

- 入力コードはピンジャックやコネクターにしっかり挿入されていますか。
- 電源コードや電源トランスから発する雑音が入力コードに入って雑音がでることがあります。入力コードをそれらに近づけないようにしてください。
- ピンコードと電源コードやスピーカーコードを一緒に束ねると、ハムや雑音の原因となることがありますので、束ねないようにご注意ください。
- 各チャンネルの入力端子には、バランス入力端子かRCA入力端子のどちらか使用するほうのみを接続し、切り換えスイッチをそちらへ切り換えてください。

3. DTC-7と接続しているとき、DTC-7のディマー機能に本機が連動しない（On/Standbyインジケーターの明るさ調整がはたらかない）

- DTC-7の12V TRIGGER OUT B（CONTROL LINK OUT）端子に接続されていることを確認してください。（12V TRIGGER OUT A端子に接続している場合は、ディマー機能は連動しません。）
- 12V TRIGGER端子の接続には、付属のステレオミニプラグ付きケーブルを使用してください。
（これ以外のケーブルで接続している場合は、ディマー機能は働きません。）
- ケーブルの接続が不完全だと連動しません。正しく接続してください。

仕様

■ アンプ部

定格出力（AES-17 LPFで測定）

全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）

8Ω　120W（20～20,000Hz）
全高調波歪率1% 以下
4Ω　240W（1,000Hz）
全高調波歪率1% 以下
4Ω　315W（1,000Hz）（JEITA）

ダイナミックパワー（2チャンネル駆動時）

2Ω　350W
4Ω　267W
8Ω　162W

全高調波歪率 （1,000Hz入力時、AES-17 LPFで測定）

1%（定格出力時）
0.01%（1W出力時）

ダンピングファクター

25（8Ω、1kHz）

入力感度/インピーダンス

1V、5kΩ（アンバランス）
2V、10kΩ（バランス）
5 -12Vdc（12V Trigger）

周波数特性

10Hz～60kHz：+1dB、−3dB（8Ω）

S/N比

115dB（IHF-A、1V入力時/アンバランスまたは2V入力時/バランス）

■ 一般仕様

使用電源

AC100V、50/60Hz

消費電力

510W

待機時消費電力

3.8W

入力端子

アナログ音声：
アンバランス（RCAタイプ）×7
バランス（XLRタイプ）×7
コントロール：
12V TRIGGER（CONTROL LINK）×1
電源：
AC INLET（IECタイプ）×1

出力端子

アナログ音声：
スピーカー×7

外形寸法

435（幅）×175（高さ）× 452（奥行）mm

質量

18.3kg

※ 仕様および外観は予告なく変更することがあります。

ONKYO

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お 客 様 ご相談窓口	カスタマーセンター　受付　9:30～17:30（土日祝、弊社休日除く） ■カタログのご請求、製品についてのご相談 ＊e-mail ： ホームシアター/オーディオ製品 → customer@onkyo.co.jp ＊TEL. ： ナビダイヤル 0570－01－8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます） または 072－831－8111（携帯電話、PHSから）へどうぞ。 ＊FAX. ： 072－831－8124 ＊はがき ： 〒572－8540 大阪府寝屋川市日新町 2 － 1 オンキヨー株式会社　カスタマーセンター行

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ　→ http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ　→ http://www.e-onkyo.com

修理窓口

修理のご依頼は、取扱説明書の「困ったときは」、「故障かな？と思ったときは」または「故障？と思ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障で、お困りの場合は、下記へご相談ください。

東京サービスセンター TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124 〒111-0054 東京都台東区鳥越 1-2-3 ハマスエビル	大阪サービスセンター TEL 072-831-8080　FAX 072-831-8124 〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町 2-1

2003年2月現在　お客様相談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

Integra

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より3年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスセンターにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名（DTA-7）」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスセンターまでご連絡ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスセンターにご相談ください。

修理を依頼されるときは、下記事項をお買い上げ店、または当社サービスセンターまでお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 DTA-7
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　年　月　日

ご購入店名：

Tel.　　(　)

メモ：

Integra®

オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくは「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載の最寄りのサービスセンターへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎03（3861）8121　●大阪サービスセンター　☎072（831）8080

ONKYO HOMEPAGE
http://www.onkyo.co.jp/

SN 29343447A
Printed in Japan
D0303-1